



児童家庭支援センター

ファミリーステーションいなみえん通信

発行：社会福祉法人 伊奈美園

発行日：平成31年1月吉日【第23号】

新年のご挨拶



副理事長

おもて 表
たかよし 敬喜

新年あけましておめでとうございます。2019年がスタートしました。今年は平成最後の年で4月には新しい年号が発表されることになりました。社会的養育ビジョンも進んでおり、児童養護は今年もまた激動の年になりそうです。そうした中、児童家庭支援センター（以下、センター）は心理的ケアをはじめ、里親支援を行うフォスタリング機能等、今まで以上に期待をされています。皆様の期待に応えられるよう、職員一同がんばっていきたいと思っています。

当法人に児童家庭支援センターが設置されたのは平成13年でした。それからはや17年の歳月が流れました。設置された頃は相談件数も少なく、その意義が問われた時期もありましたが、その後順調に相談件数を伸ばし、現在のように期待を受ける存在になるとは思ってもみませんでした。センターが設置され地道に実績を上げていくなかで、施設に入所している子ども達を養育する職員の姿もずいぶん変わってきたと感じます。子ども達が起こす問題に対して寄り添い一緒に解決していく姿勢が自然と身についてきたように感じます。これは、センターの心理職の方々が地道にカウンセリングを行ってきたことも要因のひとつだと思っています。

また、関係機関や地域の方々からも当センターが心理的ケアを行っている事に対して信頼を得ることが出来てきました。近年は児童虐待を受けた子や発達障害を持った子の入所が増え、以前のように純粋養護のケースで入所してくる子が皆無になりましたが、そういった子ども達に対してもしっかりと対応することが出来ていると感じています。

そうした中で、これからさらに皆様の期待に応えていくためには、さらに関係機関の方々や地域の方々の要望を真摯に受け止めていかなければならないと考えています。近年増加しているショートステイ・トワイライトステイ、里親からのレスパイトケアへの要望にも応えていかなければならないですし、ただ預かるだけではなく、預かってもらって良かったと思われるようなケアをしていかなければならないと考えています。

国は児童相談所の機能強化を掲げています。市内には子育て世代包括支援センターも設置されました。各機関の相談員の方々が忙しく駆け回っている中、当センターも地域の相談機関としてもっと身近な存在になっていかなければいけないと思います。相談を受ける機関として、実際に子ども達を養育している方々に寄り添うことはとても難しいことです。本当に相談者の大変さをわかっているのか、気持ちを理解しているのか、常に反省しなければいけないと思います。センターの職員は決して上から目線になることなく、相談者に寄り添って一緒に問題を解決していただきたいと思います。当センターが、皆様の要望に応えられるよう、さらなる機能強化を図っていきたいと考えております。

今年も一年よろしくをお願いします。



こども園訪問活動報告

臨床心理士

もりい
森井 しづか

児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん（以下、センター）と同じ法人内に、幼保連携型認定こども園 キッズランドいなみえんがあります。今回はこのつながりを活かした、こども園訪問についてお話したいと思います。

こども園訪問は、平成29年度から始まりました。年齢別に0～5歳児の6クラスがあり、各クラスに心理士が定期的に半日ほど訪問し、朝の自由時間から日中の活動、昼食の時間を観察します。観察といいましても、直接子どもたちにまざってかかわることでの気づきも多いです。開始当初は、心理士が定型発達の子どもの発達段階に応じた力を学ぶことに役立てていた側面が大きい事業でした。言葉や運動機能、こころの理論、時間の概念といった発達を子どもとふれあう中で実感し、子どもの成長に対する感動も抱きました。

発達に応じた力を学ぶことに加えて2つの気づきがあったと振り返っています。

一つ目は、子どもの表現するものは発達の視点に加えて心情を想像することが大事だということです。印象深いこととして2歳児クラスに行った時のことです。Aちゃんは「ズボン履けない、履かせて。」と心理士に言いました。保育教諭に「いつもは自分で履いてるでしょ？」と言われると、“バしたか”というような表情で自分で履き始めます。昼食時にBちゃんは、スプーンですくっては心理士に「これは？」と確認し、タマネギが入っていないと確認した上で食べていました。しかし、保育教諭がタマネギを口に運ぶと食べられるのです。発達段階上難しいのではなく、「かまってほしい」「甘えたい」という思いからの行動であり、想像以上に子どもは小さい頃から相手をみて行動しているのだと驚いた体験でした。

二つ目は、子どもだけでなくかかわる大人の状況や心情を理解した支援の必要性です。こども園で過ごすと、保育教諭の忙しさも実感します。子どもの喧嘩や体調がくずれるなど、予想外のことごとくが次々と起こります。その中で、「最近この子は気もちが沈みやすいな。」「集団場面が苦手なのだろうな、本人も困りはじめていそうだな。」と気づき心配する保育教諭を尊敬しました。保育教諭に限らず保護者を含め子どもと毎日かわる大人は時間に追われる中、子どものことを気にかけています。支援者として、大変な状況をくみ取った上で一方的でなく一緒にできることを探す支援がしたいです。

こども園訪問を重ねるにつれて、保育教諭からクラスで気になっている子どもについて相談してもらい、訪問時に観察し気づいた点や思った点を共有する機会も増えてきました。内容は言葉など発達面の遅れや集団場面の苦手さ、情緒面の不安定さなどさまざまです。継続した訪問を通して、本人の発達とともに心配な面が気にならなくなってきたことを共有する場合もあれば、当センターもしくは他の相談機関につながることもあります。日々の業務で忙しい中、保育教諭を始め子どもとかかわる方にとって相談機関につながる機会をもつ難しさや“どの程度で相談していいのだろうか？”という疑問もあると思われます。こども園訪問を通して、大小にかかわらず気になっていることを共有できる時間、継続して一緒に見守っていける関係が子どもと大人どちらにとっても大切なことだと思いました。子どもによって、初めから心理士に積極的にかわりにくる子もいれば、半年以上かけて“大丈夫な人だ。”と心を許し自分らしさをみせはじめてくれる子もいます。もしくは同じ子でも、他の子の物を奪ったり嫌なことを言って泣かせてしまう日もあれば、他の子に自分の物を譲れる日もあり、1回ではわからない部分もあるのだと実感します。今後も継続しながら、“こども園に時々現れて気軽に話せる人”を目指して精進したいです。

学童だより



学童支援員

うえなか ゆうか
上中 柚花

学童保育では、おもちゃのお金があり、それを使ってお店屋さんごっこをして遊ぶ子ども達の姿が見られます。

ある時「ハンバーガー1つ下さい」「はい、2万円になります」というやり取りが聞こえてきました。またある時は、おもちゃ屋さんをしようとした子が、支援員におもちゃの値段を聞いて、どんどん紙に書いていき、おもちゃ屋さんがはじまりました。それだけでなく、忙しくなるとアルバイトを雇うなど現実的なお店屋さんごっこをしていました。

どちらもお金を使ったごっこ遊びですが、ハンバーガー屋をやっていた子は現実の世界の価値観とのギャップがありました。それぞれの子に話を聞くと、ハンバーガー屋をしていた子は、親とあまり買い物に行かないと言い、おもちゃ屋をしていた子は、親とよく買い物に行き、支払いをするなど現実の世界でも本物のお金のやり取りをたくさん経験しているようでした。

これらのごっこ遊びの実例を通し、本物に触れる経験をすることで、子ども達の世界を広げ、さまざまな価値観を育てていくということがわかりました。

学童保育でも、本物に触れたり、見たり、聞いたりなど実体験を大切にすることで、子ども達の世界を広げ、様々な価値観を育てていけるよう支援していきたいと思います。



「第63回 全国里親大会石川大会」

里親支援専門相談員

かみで ようこ
上出 洋子

平成30年11月17日(土)~18日(日)2日間にわたり「いらっし・きまっし・楽しまっし！みんなで子育てALL JAPAN！」を大会テーマとして石川県地場産業復興センターにて第63回全国里親大会石川大会が開催されました。この大会は、子どもたちの健やかな成長のために日々奮闘している全国の里親と関係者が集い、お互いの思いを存分に話し合い、子どもの養育への熱意を高めるとともに、子どもの養育に関する課題や里親制度の現状等について研究・討議を行い、里親制度の一層の発展に役立てる事を目的としており、約600人の参加がありました。

1日目は認定特定非営利活動法人Living in Peace代表理事 慎 泰俊氏の記念講演、2日目はテーマ別に分かれた6つの分科会が開催されました。

2日間、里親と関係者が集い、里親支援の現状と課題について向き合い、社会的養護が必要な子どもたちの最善の利益を共に学び、考える2日間となりました。



亥年のスタート

所長 たなか たかし 田中 孝

今冬は、「暖冬です」と長期予報が出て、本当にそうなりそうな気配になってきました。1月20日現在で、まだ施設周辺の雪かきをする必要性が無いほどの降雪状況です。生活するうえでは、雪は少ない方が良くと言う人が多いでしょうが、私も含めスキーなどのウィンタースポーツが好きな人には、物足りない冬を感じていると思います。

さて、当センターの運営事業実績の相談受付件数が昨年4月～12月末までで1080件と、前年比で5%上回っていました。年度当初に前年度の実績を少しでも上回ることを目標にしてスタートしたので、少し安堵しています。ショートステイ・トワイライトステイの一時預かり延べ人数も11月末までに108名と昨年比14%アップとなっています。今年度も残り3か月となり、1年間の締め括りの時期になります。より一層気持ちを引き締めていきたいと思います。本年もよろしくお願い申し上げます。

相談担当

曜日	心理担当（要予約）		
	浅田	白田	森井
月		13:00-21:00	9:00-17:00
火		13:00-21:00	9:00-17:00
水		13:00-21:00	9:00-17:00
木		13:00-21:00	9:00-17:00
金		9:00-17:00	9:00-17:00
土	10:00-17:00	9:00-14:30	9:00-14:30
日			

【相談ダイヤル】

月曜日～土曜日

9:00～17:00

0761-75-8889

【山代出張相談】

＜場所＞山代よりみちハウス

＜日時＞毎月第2火曜日

14:00～16:00

連絡は当センターまで

今後の予定

1月28日（月）山代地区子どもを育てる会（月定例）

2月 2日（土）里親研修会

2月 5日（火）要保護児童対策地域協議会
ブロック会議（南加賀地区）

2月 6日（水）片山津小学校保健委員会講師

2月19日（火）子ども支援連絡会（月定例）

2月22日（金）親の会（月定例）

3月 8日（金）施設心理士会（定例）

2月14日/28日

山代出張相談（第2・4木曜日）

平成30年度相談件数統計

	4/1～12/31（延件数）
電話相談	106
来所相談	392
訪問相談	417
心理療法等	165
合 計	1080
児童相談所からの 受託による指導	124

子どもと家庭の悩み 話してみませんか？

児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん

〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉井6番地

TEL 0761-75-8889

FAX 0761-74-1461

E-mail center@inamien.jp

HP <http://www.inamien.jp>